

2020年度  
東京都板橋区立新河岸小学校  
学校経営方針

2030年を生き抜く  
子供たちのために  
誰一人として取り残さない  
Leave no one behind

学校は、子供たちにとって

- ・ 安心・安全で居心地のよい場所
  - ・ 自己実現を図る場所
- である。

「共汗・継続・徹底」の徹底

- 共汗・・・ 一緒に取り組む  
継続・・・ 続けて取り組む  
徹底・・・ とことん取り組む

東京都板橋区立新河岸小学校  
2020年度学校経営方針

校長 高野 剛一

## 1 学校経営の基本的な考え方

### (1) 公立学校としての役割と責任を果たす

公立学校は、保護者・地域の期待に応えるものでなければならない。公立学校として国の定めた法令や基準等に基づいた公教育を意図的・計画的・組織的に行うことによって、知・徳・体の調和のとれた心身共に健やかな人間の育成を目指す。また、国家・社会の形成者として必要な資質を養うことも重要な役割である。そのためには、規範意識の醸成など、社会において自立的に生きるための基礎・基本を身に付けられるよう発達段階に応じた適切な指導が必要である。

板橋区教育委員会では、平成28年度に「板橋区教育ビジョン2025」を策定し、「子どもの学びを保障する教育環境の確保」「これからの社会を生き抜く力の育成」「地域と共に学び合う教育の推進」という3つの基本的方向性を示している。さらに、平成31年度に策定の「いたばし学び支援プラン2021」では、3つの柱として「保幼小接続・小中一貫教育の推進」「板橋区コミュニティスクール(iCS)の導入」「教職員の働き方改革」を具体的な取組として挙げている。

本校では、公立学校が担う役割と責任を果たすとともに「板橋区教育ビジョン2025」及び「いたばし学び支援プラン2021」の実現に向けて、教職員が一丸となって教育の質を高められるよう全力を尽くしていく。

### (2) 本校の歴史と伝統を継承し発展させる

昭和52年に開校し、今年度創立43年を迎える本校は、地域に愛され、地域とともに歴史を築いてきた。また、これまで研究奨励の委嘱を数多く受け、教職員は、新河岸小学校の児童に質の高い教育を提供するため努力してきている。この歴史と伝統を継承し、さらに発展させていくために、私たちは、学び続け、変化し、成長し続けなければならない。

また、今年度からの板橋区コミュニティスクール(iCS)導入によって、これまで以上に学校と保護者・地域等が連携・協働し、地域とともにある学校づくりを目指す。

### (3) 時代・社会の要請に応える

人工知能等の急速な発達により、社会はますます予測困難な時代を迎える。2030年の社会を見据え、その社会を生き抜く現在の子供たちに必要な資質能力を身に付けさせるため、教職員は、今年度全面実施となる新学習指導要領の理念の具現化を図り、よりよい教育の実現に向けて努力し続けなければならない。

### (4) iCSとしての学校そして小中一貫教育

今年度導入のiCS(板橋区コミュニティスクール)として、学校は、保護者・地域と一体となってつながり、学校にかかわる大人の知恵と力を集めた教育委活動を推進する。

また、義務教育9年間を見通した教育課程の実現に向け、高島第一中学校学びのエリアでの小中一貫教育を推進する。

### 3 学びのエリアの目指す子ども像

あきらめない子

### 4 学校の教育目標

- よく考える子ども
- ねばり強くやりぬく子ども
- なかよく助け合う子ども
- 明るく元気な子ども

### 5 目指す子供像

- 自分のよさとともに他者の良さを認められる子供（自己肯定感の高揚）
- 地域を愛し、地域に貢献する子供（地域愛の醸成）

【具体的な児童の姿】

☆友達と互いのよさを認め合う中で、自分のよさに気付き、よりよくなろうとしている姿  
☆地域で学び地域の人々と交流する中で、地域を愛し、地域に貢献するために活動する姿

**「自分大好き！みんな大好き！新河岸大好き！」**

### 5 育てたい資質・能力

- 主体的に課題を発見し、解決に導く力（明るく元気な子ども・よく考える子ども）
- 協働して課題解決に取り組む力（仲よく助け合う子ども）
- 失敗を恐れずチャレンジする力（ねばり強くやりぬく子ども）

**「明るく 仲よく 本気で取り組む新河岸の子」**

### 6 目指す学校像

(1) 児童が、充実感を得られる学校

#### ① 学力向上

文章を理解して読めるようにすること、自分の考えを分かりやすく相手に伝えられるようにすること、試行錯誤を繰り返しながら粘り強く、主体的に課題解決に取り組めるようにすることを指導の重点に置く。

#### ア 落ち着いた学習環境の整備

- ・特別支援教育（ユニバーサルデザイン）の考え方に基づいた教室環境の整備及び指導
- ・学習規律の確立及び徹底（**学習の約束**）
- ・副担任等による複数での指導体制（一人一人の児童を全ての教職員で見守る姿勢）

#### イ 読み解く力を育成する指導の充実（校内研究の中心）

- ・M I M及びR S Tの実施及び結果分析
- ・読み解く力を育成するための教材開発及び継続的な指導
- ・音読、視写、暗唱の指導の充実（全校チャレンジ等）

- ・語彙力を高める教材開発及び継続的な指導

#### ウ 基礎的・基本的学習内容の確実な定着

- ・朝の学習の時間及びレベルアップタイムの充実
- ・漢字及び計算検定の充実
- ・新河岸フラッシュカードの全学年での活用

#### エ 協働学習の充実

- ・ペア学習を全学年で意図的・計画的に取り入れる。
- ・グループ学習による成果を児童が実感できるようにする。

#### オ 読書活動の充実

- ・読書をする時間の確保
- ・「読書のあしあと」の取組の推進

### ② 体力向上

運動に親しむとともに、粘り強く継続的に取り組ませることによって体力向上を図る。

#### ア オリンピック・パラリンピック教育の推進

#### イ 年間を通した短縄跳びの取組

#### ウ 体カテストの結果分析

#### エ 青少年健全育成行事に向けた取組（大縄・ドッジボール）

### ③ 規律遵守の徹底

児童が規律を守ることによって充実した集団生活を送ることができるよう、全ての教職員が、同じ姿勢で指導を行う。

#### ア あいさつ・返事、話の聴き方、丁寧な言葉遣いの指導の徹底（生活の約束）

### ④ 人権教育の推進

#### ア なかよし班活動の充実

- ・異学年による縦割り班（なかよし班）の活動を年間通して意図的・計画的に実施する。

#### イ よさを認め合う取組

- ・各学級、各学年、全校で児童のよさを認め合う取組を意図的・計画的に実施する。

#### ウ 努力を認める取組

- ・暗唱チャレンジ、縄跳びカード、読書の足あと等、児童の努力を賞賛する場を多く設定する。

#### エ 鼓笛隊の取組

- ・5、6年生になったら鼓笛隊ができることに喜びを感じ、下学年から憧れとなるような新河岸小鼓笛隊とするたに取組を充実させる。

## (2) 児童が、安全・安心な学校

### ① いじめ・不登校等の未然防止、早期発見、早期対応

#### ア 心の安全・安心点検の毎月実施

#### イ ハイパーQJの実施（5、6年生 年間2回）

#### ウ 心を育む取組

### ② 適切な児童理解に基づいた温かく肯定的な指導

- ア 生活指導全体会
- イ 生活指導夕会（週1回）
- ウ スクールカウンセラー等の活用
- エ 特別支援教育の推進
- オ アンガーマネージメント

③ 環境整備

- ア ユニバーサルデザインによる教室環境整備
- イ 安全点検、安全指導（月1回）

④ 災害等緊急時の体制整備

- ア 危機管理マニュアルの全教職員による理解の徹底
- イ 避難訓練の確実な実施
- ウ アレルギー対応
- エ 不審者対応

(3) 児童が、地域と共に育つ学校

① 地域の教育力を活用した教育活動

- ア 町会、自治会、新河岸工業会、敬老会等、地域の教育力の積極的な活用
  - ・地域が教科書（地域で学ぶ 地域に学ぶ 地域を学ぶ）
  - ・地域に根付いた生活科、総合的な学習の時間の充実
- イ 学校支援地域本部との連携の推進
  - ・「新河岸の人、もの、こと」を最大限に活用するため、地域コーディネーターと連携する。

② iCSの取組

- ア コミュニティスクール委員会の充実
- イ 教育活動の積極的な情報発信
- ウ 学校公開、学校行事の充実
- エ あいさつや地域清掃等、地域に貢献する取組
- オ 学校評価を活かした教育活動の充実

③ 学びのエリアでの教育の充実

- ア 学びのエリアを核とした小中一貫教育の推進
- イ 保幼小接続（スタートカリキュラム）の充実
- ウ 近隣保育園、幼稚園、中学校との交流

④ 保護者・地域と連携した児童の健全育成

- ア おおぞらクラブ、PTA、おやじの会と連携した取組
- イ 青少年健全育成事業等、地域行事への積極的な参加

(4) 教職員が、笑顔で子供と向き合い、向上を目指す学校

① 授業力・指導力の向上

ア 板橋区授業スタンダードの徹底

- ・明確なめあての提示
- ・自力解決及び協働学習の時間の確保
- ・振り返りの実施
- ・「学習の進め方」の提示による見通しがもてる授業展開

イ 一部教科担任制の実施等、一人一人の児童を全ての教職員で見守る体制づくり

ウ 教科の専門性の向上

エ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた研修の充実

オ 教育相談やコーチング等、児童に寄り添った指導力の向上

② 働き方改革の推進

- ・教職員が、自らのワークライフバランスを意識して心身の健康に努め、笑顔で子供と向き合うことができる職場をつくる。
- ・子供と向き合う時間と指導法の研究の時間の確保のため、仕事の効率化と分業化を行い、働き方改革を推進する。

③ 校内研修の充実

ア 校内研究の推進

「読み解く力及び自分の考えを書く力の育成」を中心に、教材開発及びその実践を進める。

イ 校内 OJT 研修の充実

- ・授業力向上のためのグループ OJT の実施（J K C）
- ・全教員参加によるミニ研修会の実施（可能な範囲で）

④ 服務規律の遵守

ア 服務事故防止研修の定期的な実施

イ 体罰ゼロ宣言

- ・児童理解に基づいた、温かく肯定的な指導を行う。

⑤ その他

ア 地域行事への参加

イ 保護者、地域から信頼を得る教職員としての身だしなみ（服装・言動・表情）